

サービスコミュニケーション I

授業の目的

日本語能力試験（JLPT）N3 合格のために、文字語彙・文法・文章構造について理解できるようになる。

科	服装科	教員	篠崎 涼子、池田 智子
コース	ビジネスコース	教員の実務経験	あり
対象年次	1 年次	年間単位時間	80

目標
前期
1. N3 未取得者は、今年度中に N3 を取得するために、模擬試験で 70%以上取れるようになる。
2. N3 取得者は、N2 レベルの日本語を理解し、模擬試験で 50%以上取れるようになる。
後期
1. 受講学生が 12 月の JLPT 前に、模擬試験で 60%以上取れるようになる

授業計画
前期
第 1 回 アイスブレイク 授業スケジュール JLPT 目標設定 評価方法
第 2-3 回 確認テスト⇒フィードバック
第 4-5 回 1 課 初めての富士登山 (1)
第 6-7 回 1 課 初めての富士登山 (2)
第 8-9 回 2 課 ぼくの犬、クロ (1)
第 10-11 回 2 課 ぼくの犬、クロ (2)
第 12-13 回 3 課 市民農園の募集 (1)
第 14-15 回 3 課 市民農園の募集 (2)
第 16-17 回 4 課 水泳大会 (1)

第 18 回 聴解・読解
第 19-20 回 4 課 水泳大会 (2)
第 21 回 聴解
第 22-23 回 5 課 手作りハムのレシピ (1)
第 24-25 回 5 課 手作りハムのレシピ (2)
第 26-27 回 6 課 里山について (1)
第 28-31 回 前期のまとめ
第 32-36 回 テスト対策
第 37 回 試験
第 38-39 回 試験採点・返却、フィードバック
第 40 回 再試験

後期

第 1 回 アイスブレイク 授業スケジュール JLPT 目標設定
第 2-3 回 6 課 里山について (2)
第 4-5 回 7 課 不動産屋で (1)
第 6-7 回 7 課 不動産屋で (2)
第 8-9 回 8 課 就職の面接
第 10-11 回 9 課 お花見 (1)
第 12 回 9 課 お花見 (2)
第 13 回 聴解
第 14 回 10 課 ゆきの選択 (1)
第 15 回 聴解
第 18-19 回 10 課 ゆきの選択 (1)
第 20-21 回 10 課 ゆきの選択 (2)
第 22-23 回 11 課 友だちのお見舞い (1)
第 24-25 回 11 課 友だちのお見舞い (2)

2025 年度

第 26-28 回 後期のまとめ
第 29-31 回 全体総復習
第 32-36 回 テスト対策
第 37 回 試験
第 38-39 回 試験採点・返却、フィードバック
第 40 回 再試験

授業の方法

講義・実践演習

教材

ABK (公益財団法人 アジア学生文化協会) (2023) 『TRY! 日本語能力試験 N3 改訂版』株式会社
アスク出版

評価の方法

【期末試験 80%】

ペーパーテスト

【平常点 20%】

授業中に関係のないこと（スマホ、居眠り、私語、PC で授業に関係ないものを見る等）をした場合に減点
式で行う（各-1 点）

授業外での学習方法

- ・ 学習した語彙を日常会話に取り入れる
- ・ 漢字の書き練習を行い、定着させる

実務経験と授業科目の関係

サイバーセキュリティ

授業の目的・概要

- (1) サイバーセキュリティの重要性を理解し、情報セキュリティリスクを排除したデータ運用ができる。
- (2) 情報セキュリティに関して、IT パスポート試験に合格できる知識を身に着ける。

科	服装科	教員	宮崎 陸、酒井 克実
コース	ビジネスコース	教員の実務経験	あり
対象年次	1 年次	年間単位時間	80

目標

前期

1. サイバーセキュリティの重要性を、ISMS と結びつけて説明することができる。
2. 情報セキュリティの目的とその種類を説明することができる。
3. 情報資産への脅威・脆弱性について説明することができる。
4. サイバー攻撃の手法とその対策について説明することができる。
5. セキュリティ技術とその種類について説明することができる。
6. リスクアセスメントを行い、目標から逆算してリスクへの対応方法を選択することができる。

後期

7. マルウェアの種類を説明することができる。
8. マルウェア対策の種類について説明することができる
9. 情報セキュリティに関する法規の種類とその内容について説明することができる。

授業計画

前期

第 1 回 オリエンテーション（授業の目的、成績評価、平常点について）

サイバーセキュリティの重要性（セキュリティインシデントの紹介）

第2回 情報セキュリティの目的、3つの観点（機密性・完全性・可用性）

第3回 情報資産、脅威、脆弱性

第4回 脅威の種類（物理的脅威、技術的脅威、人的脅威）

第5回 脆弱性の種類（物理的脆弱性、技術的脆弱性、人的脆弱性）

第6回 問題演習（IT パスポート過去問道場）

第7回 サイバー攻撃方法（不正アクセス）、
ブルートフォース攻撃、辞書攻撃、パスワードリスト攻撃と各攻撃への対策

第8回 盗聴、盗聴の種類（スニファ、電波傍受、キーボードロギング）とその対策

第9回 なりすまし

なりすましの種類（パスワードリスト攻撃、フィッシング、MITB・MITM）とその対策

第10回 問題演習（IT パスポート過去問道場）

第11回 DoS 攻撃・DDoS 攻撃とその対策

第12回 ソーシャルエンジニアリング（ショルダーハッキング、スキャビンジング、会話）とその対策

第13回 クロスサイトスクリプティング、クロスサイトリクエストフォージェリ、SQL インジェクション
とその対策

第14回 標的型攻撃（メール、水飲み場型攻撃、やり取り型攻撃）、ゼロデイ攻撃とその対策

第15回 問題演習（IT パスポート過去問道場）

第16回 セキュリティの概要（組織的・人的な取り組み、セキュリティ技術）
セキュリティ技術の種類（暗号化、認証、マルウェア対策、フィルタリング）

第17回 暗号化、復号、共通鍵暗号方式

第18回 公開鍵暗号方式、共通鍵暗号方式と公開鍵暗号方式の違い

第19回 問題演習（IT パスポート過去問道場）

第20回 認証の概要、パスワード認証、ワンタイムパスワード

第21回 バイオメトリクス認証（指紋、虹彩、声紋、静脈パターン）

第22回 デジタル署名、PKI

第23回 問題演習（IT パスポート過去問道場）

第24回 リスク、リスクの要素、リスクマネジメントの流れ

第 25 回 リスクの特定と分析

第 26 回 リスクの評価、受容水準

第 27 回 リスク対応（回避、低減、移転、保有）

第 28 回 問題演習（IT パスポート過去問道場）

第 29 回 情報資産・脅威・脆弱性の復習、問題演習

第 30 回 サイバー攻撃方法の復習①、問題演習（IT パスポート過去問道場）

第 31 回 サイバー攻撃方法の復習②、問題演習（IT パスポート過去問道場）

第 32 回 セキュリティ対策の復習①、問題演習（IT パスポート過去問道場）

第 33 回 セキュリティ対策の復習②、問題演習（IT パスポート過去問道場）

第 34 回 リスクに関する復習、問題演習

第 35～36 回 テスト対策

第 37 回 試験

第 38～39 回 試験採点・返却、フィードバック

第 40 回 再試験

後期

第 1 回 前期の学習内容確認、後期の授業概要説明

第 2 回 マルウェアの分類（ウイルス、ワーム、トロイの木馬）と
機能（自己伝染機能、潜伏機能、発病機能）

第 3 回 マルウェアの種類（スパイウェア、ランサムウェア、ボット）

第 4 回 マルウェア対策（予防：ウイルス対策ソフト、ビヘイビア法、検疫ネットワーク）

第 5 回 マルウェア対策（感染後対応、端末管理）

第 6 回 問題演習（IT パスポート過去問道場）

第 7 回 不正アクセス対策（ファイアウォール、WAF、プロキシサーバ）

第 8 回 不正アクセス対策（DMZ、IDS）

第 9 回 情報漏洩対策（リモートアクセスと認証サーバ）

- 第 10 回 アクセス管理 (SSL/TLS)
- 第 11 回 アクセス管理 (VPN とその種類)
- 第 12 回 問題演習 (IT パスポート過去問道場)
- 第 13 回 物理的対策 (火災: 防火壁、スプリンクラー、消火器、地震: バックアップサイト、データの遠隔保管、危機管理計画の作成、落雷・停電: 予備電源、避雷針)
- 第 14 回 物理的対策 (機器の故障: 冗長化・ライフサイクル管理、過失によるデータ破壊: バックアップ、フルプルーフ)
- 第 15 回 問題演習 (IT パスポート過去問道場)
- 第 16 回 人的対策 (内部不正の防止、システム運用の管理)
- 第 17 回 人的対策 (入室管理・アンチパスバック、セキュリティ教育)
- 第 18 回 問題演習 (IT パスポート過去問道場)
- 第 19 回 情報セキュリティポリシーその種類 (基本方針、対策基準、実施手順)
- 第 20 回 情報セキュリティマネジメントシステムと国際基準・国内基準
- 第 21 回 問題演習 (IT パスポート過去問道場)
- 第 22 回 個人情報保護法、プライバシーマーク制度
- 第 23 回 知的財産権: 著作権とその種類 (著作人格権、著作財産権、著作隣接権)
- 第 24 回 知的財産権: 特許権、意匠権、実用新案権、商標権
- 第 25 回 知的財産権の事例紹介
- 第 26 回 問題演習 (IT パスポート過去問道場)
- 第 27 回 不正アクセス禁止法、事例紹介
- 第 28 回 サイバーセキュリティ基本法、事例紹介
- 第 29 回 問題演習 (IT パスポート過去問道場)
- 第 30 回 マルウェアの復習、問題演習 (IT パスポート過去問道場)
- 第 31 回 不正アクセス対策の復習、問題演習 (IT パスポート過去問道場)
- 第 32 回 人的対策・物理的対策の復習、問題演習 (IT パスポート過去問道場)
- 第 33 回 法規に関する復習、問題演習 (IT パスポート過去問道場)
- 第 34 回 法規に関する復習②、問題演習 (IT パスポート過去問道場)

2025 年度

第 35～36 回 テスト対策

第 37 回 試験

第 38～39 回 試験採点・返却、フィードバック

第 40 回 再試験

授業の方法

講義、問題演習

教材

生徒用教科書

- ・情報セキュリティマネジメント合格教本 令和 07 年（岡嶋裕史）

教師用参考資料

- ・図解入門よくわかる最新情報セキュリティの技術と対策（若狭直道）

評価の方法

試験 80％、授業態度 20％

授業外での学習方法

[IT パスポート過去問道場 | IT パスポート試験ドットコム \(itpassportsiken.com\)](https://itpassportsiken.com)

[基本情報技術者過去問道場 | 基本情報技術者試験.com \(fe-siken.com\)](https://fe-siken.com)

※試験の過去問演習を行い、知識の定着を図る

実務経験と授業科目の関係

ビジネスマナー

授業の目的・概要

- ・ 周囲の関係者と良好な関係を築けるよう、ビジネスマナーを身につける。
- ・ 日本のビジネスマナーを理解し、組織の中で円滑なコミュニケーションが取れるようになる。
- ・ 相手に好感を持たれる対応を身につけ、良好な人間関係を築くことができるようになる。
- ・ 2 年次の就職活動において、面接に合格できるようなビジネスマナーを身につける。

科	服装科	教員	前田 遥香、村松 紀子
コース	ビジネスコース	教員の実務経験	あり
対象年次	1 年次	年間単位時間	40

目標

前期

- ・ なぜビジネスマナーが重要なのかを説明できるようになる。
- ・ 就職活動に必要な立ち居振る舞いの基本を習得できる。
- ・ 「席次」を理解し、状況に応じた適切な位置取りができる。
- ・ 相手に好感を持たれる電話対応や来客対応ができる。
- ・ メールや封筒の宛名を適切に書きくことができる。

後期

- ・ 「報連相」の必要性を理解できる。
- ・ 企業の採用担当者とメールで適切なやり取りを行うことができる。
- ・ ZOOM を使った、インターネット説明会・面接のマナーを理解できる。
- ・ Google カレンダーを使って予定を管理することができる。
- ・ Google ドライブを使ってビジネスの資料を整理し保管することができる。

授業計画

前期:

第 1 回 オリエンテーション(前期授業内容/授業の受け方ビジネスマナーの重要性について/評価)とアイス
ブレイク

第 2 回 身だしなみ

第 3 回 入退室

第 4 回 話し方・敬語の使い方

第 5 回 整理整頓

第 6 回 携帯電話のマナー

第 7 回 社会人としてしてはいけないこと

第 8 回 社会人らしい行動と言葉遣い

第 9 回 名刺の渡し方 (相手の名刺をなくさないよう Google ドライブで保管する練習)

第 10 回 接客・訪問

第 11 回 接待・会食・席次

第 12 回 電話対応

第 13 回 ビジネスメール

第 14 回 封筒の書き方、書類返信の際のヘッドシートの書き方

第 15 回 前期のまとめ

第 16 回 テスト対策

第 17 回 試験

第 18-19 回 試験採点・返却、フィードバック

第 20 回 再試験

後期:

第 1 回 オリエンテーション(後期授業内容/目標/評価について)

第 2 回 指示を受ける

第 3 回 報告・連絡・相談

第 4 回 社内でのコミュニケーション

第 5 回 日本人の仕事観

第 6 回 就職対策① ビジネスチャットの基礎知識とマナー

第 7 回 就職対策② インターネットと Google 翻訳を使ってビジネスマナーの情報を収集してみよう

第 8 回 就職対策③ 相手企業の情報を集め、Google ドライブに資料を残す練習をしよう

第 9 回 就職対策④ 相手が知りたい情報を考え、履歴書の文章を作ってみよう

第 10 回 就職対策⑤ 予定管理をしてみよう (Google カレンダーの使い方の練習)

第 11 回 就職対策⑥ 企業の採用担当者にメールを送る練習をしよう

第 12 回 就職対策⑦ ZOOM をダウンロードし、説明会を受ける練習をしよう

第 13 回 就職対策⑧ オンライン面接の練習をしよう

第 14 回 就職対策⑨ 対面での面接の練習をしよう

第 15 回 後期のまとめ

第 16 回 テスト対策

第 17 回 試験

第 18-19 回 試験採点・返却、フィードバック

第 20 回 再試験

授業の方法

講義、画像・動画視聴、問題演習、発話練習、グループワーク

教材

主教材：

釜淵優子(2008)『しごとの日本語 ビジネスマナー編』出版：株式会社アルク

参考書：

奥村真希・釜淵優子(2007)『しごとの日本語 電話応対 基礎編』出版：株式会社アルク

奥村真希・釜淵優子(2008)『しごとの日本語 メールの書き方編』出版：株式会社アルク

評価の方法

2025 年度

期末試験 70%、授業態度 20%、授業外での学習 10%。授業態度は、取り組む姿勢や出席状況等を含み評価する。授業外での学習は、配信された課題への取り組みで評価する。

授業外での学習方法

Google フォームで問題を出したり、動画撮影やメールを送るワーク型課題等を行う。

実務経験と授業科目の関係

ビジネスリーディングⅠ

授業の目的

日本語能力試験（JLPT）N3 合格のための読解力を身につける。やさしい内容のビジネス文書やメールの内容を理解するための表現や語彙を学ぶ。

科	服装科	教員	池田 智子、平松 真理
コース	ビジネスコース	教員の実務経験	あり
対象年次	1 年次	年間単位時間	40

目標

日常的な話題について書かれた具体的な文章の内容を読みとることができる。

ビジネスで使う表現や語彙を理解しやさしい内容のビジネスメールを読みとることができる。

よく使われる文末表現から文の意味やニュアンスの違いを読みとることができる。

授業計画

前期

第 1 回	オリエンテーション・評価方法・自主学習・JLPT の重要性について
第 2 回	いろいろな文書とキーワード
第 3 回	いろいろな文書とキーワード
第 4 回	文末表現 1 から 5、短文 1、2
第 5 回	文末表現 6 から 10、短文 3、中文 1
第 6 回	文末表現 11 から 14、中文 2
第 7 回	文末表現 15 から 18、中文 3
第 8 回	文末表現 19 から 20、長文 1
第 9 回	文末表現 21 から 24、長文 2
第 10 回	文末表現 25 から 28、情報検索 1
第 11 回	文末表現 29 から 33、JLPT 直前対策、模擬試験
第 12 回	接続表現 34 から 38、短文 4、5、6
第 13 回	接続表現 39 から 42、短文 7、8、9
第 14 回	接続表現 43 から 45、中文 4
第 15~16 回	接続表現 46 から 50、期末試験対策
第 17 回	期末本試験
第 18~19 回	期末試験採点・返却・フィードバック
第 20 回	期末再試験

後期

第 1 回	オリエンテーション・評価方法・自主学習について
第 2 回	中文 5, 中文 6
第 3 回	中文 7, 中文 8
第 4 回	中文 9, 中文 10
第 5 回	長文 3, 長文 4
第 6 回	長文 5, 長文 6
第 7 回	情報検索 2, 3
第 8 回	情報検索 4, 5
第 9 回	JLPT 直前対策、模擬試験
第 10 回	短文 10, 11, 12
第 11 回	中文 11, 12
第 12 回	長文 7, 8
第 13 回	情報検索 6, 7
第 14 回	情報検索 8, 9
第 15~16 回	期末試験対策
第 17 回	期末本試験
第 18~19 回	期末試験採点・返却・フィードバック
第 20 回	期末再試験

授業の方法

講義、演習

教材

渡辺亜子・菊池民子（2010）『日本語能力試験問題集 N3 読解スピードマスター』J リサーチ出版

評価の方法

期末試験 80%、平常点 20%

期末試験は前期と後期の 2 回おこなう

平常点は、授業に取り組む姿勢（傾聴、反応、出席等）を総合的に評価する。

授業外での学習方法

JLPT 対策等、自分の能力にあった自主学習

実務経験と授業科目の関係

ビジネス表計算 I

授業の目的・概要

PC の基本操作を理解して、タイピングができるようになる。

表計算ソフト「Google スプレッドシート」の基本的な操作方法を身に付ける。

科	服装	教員	森 泰之
コース	ビジネス	教員の実務経験	あり
対象年次	1 年次	年間単位時間	40

目標

前期

- ・ PC を正しく起動・シャットダウンできる。
- ・ ローマ字入力表を見ずにタイピングができる。
- ・ スプレッドシートを用いて、連続データを入力することができる。

後期

- ・ 与えられたデータを表にまとめることができる。
- ・ 関数を使って合計や平均を求めることができる。
- ・ 与えられたデータからグラフをつくることができる。

授業計画

前期

第 1 回 オリエンテーション

：授業目的・目標・評価について、PC 取扱注意事項

第 2 回 PC や入力操作の基本①

：PC の種類と起動、マウスの操作、Windows の画面とアプリケーションの起動

第 3 回 PC や入力操作の基本②

：キーボードの名称と機能、ローマ字・ひらがな・漢字、タッチタイピング

第 4 回 PC や入力操作の基本③

：入力モードと日本語 IME、ひらがなの入力と漢字変換

第 5 回 フォルダーやファイル操作の基本①

：ウィンドウの操作、ファイル・フォルダーの作成と移動

第 6 回 フォルダーやファイル操作の基本②

：ファイル・フォルダー表示の変更、ファイルの拡張子

第 7 回 Google アカウント作成

：アカウント作成（教員指定のユーザー名・パスワード）、Google アプリと Microsoft アプリの機能

第 8 回 スプレッドシートの基本①

：スプレッドシートの起動と終了、保存フォルダーの作成、スプレッドシートの画面

第 9 回 スプレッドシートの基本②

：シートの作成と削除、スプレッドシートの保存、スプレッドシートの読み込み

第 10 回 スプレッドシートの基本③

：テンプレート、シートの印刷

第 11 回 セル操作の基本①

：セルとシートの基本、データの入力と修正、データの消去・セルの削除・セルの挿入

第 12 回 セル操作の基本②

：データのコピーと移動、オートフィル、セルの表示形式

第 13 回 表の作成と編集①

：配置、フォント、枠線

第 14 回 復習

：試験範囲の発表・復習

第 15-16 回 テスト対策

第 17 回 試験

第 18-19 回 試験採点・返却、フィードバック

第 20 回 再試験

後期

第 1 回 オリエンテーション

：授業目的・目標・評価について、1stTerm の復習

第 2 回 表の作成と編集②

：塗りつぶし、表のテーマ

第 3 回 表の作成と編集③

：表の検索と置換、表の並べ替えとピボットテーブルの解除

第 4 回 数式と参照①

：合計の計算、関数を使った合計や平均の計算、相対参照

第 5 回 数式と参照②

：絶対参照、複合参照

第 6 回 グラフ機能と素材の挿入①

：円グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの色・レイアウト・スタイルの変更

第 7 回 グラフ機能と素材の挿入②

：棒グラフの作成、グラフの種類や表示の変更、画像・図形・オンライン画像の挿入

第 8 回 関数①

：関数の基本、合計、平均

第 9 回 関数②

：最大、最小

第 10 回 関数③

：IF 関数と条件分岐、IFS 関数と複数の条件分岐

第 11 回 表・グラフの作成①

：新規ファイルの作成、表作成

第 12 回 表・グラフの作成②

：関数の利用、グラフ作成

第 13 回 表・グラフの作成③

：シートの印刷、データの並べ替え

第 14 回 復習

：試験範囲の発表・復習

第 15-16 回 テスト対策

第 17 回 試験

第 18-19 回 試験採点・返却、フィードバック

第 20 回 再試験

授業の方法

講義、演習、グループワーク

教材

桑名由美 (2022) 『Google Workspace 完全マニュアル[第 3 版]』秀和システム

榎村 麻里子、松下 孝太郎 (2020) 『留学生のためのかんたん Word/Excel/PowerPoint 入門』技術評論社

参考 HP (タイピング)

<https://manabi.benesse.ne.jp/gakushu/typing/>

評価の方法

期末試験 80%、平常点 20%

平常点は、授業態度に応じて評価する。

授業外での学習方法

積極的に PC に触れ、授業で利用状況を報告。

実務経験と授業科目の関係

2025 年度

ビジネス文書

授業の目的・概要

- ・読むこと、聞くこと、話すこと、書くことの四技能で 사용할 ことができる語彙の数を増やし、自分が話したいことを表現できるようになる。
- ・ JLPTN3 に合格する。

科	服装科	教員	篠崎 涼子
コース	ビジネスコース	教員の実務経験	あり
対象年次	1 年次	年間単位時間	40

目標
前期
・ 漢字を音読み・訓読み両方で読めるようになる（読む能力） ・ 接頭辞・接尾辞を理解したうえで、単語の意味を推測することができるようになる（読む能力） ・ 教員の発話を正しくシャドーイングできるようになる（聞く能力） ・ 濁音、半濁音、拗音、促音、長音、撥音、を正しく聞き取りディクテーションができるようになる（聞く・書く能力） ・ ニュースや時事問題について、学習した語彙を用いながら話ができるようになる（話す能力）
後期
・ 漢字の音符や部首から単語の意味を推測することができるようになる（読む・書く能力） ・ カタカナ語を正しく聞き取り、ディクテーションができるようになる（聞く・書く能力） ・ 漢字の同音異義語や同訓異字、同義語が言えるようになる（話す能力） ・ 学習した語彙と共に使用する頻度が高い動詞をあわせて覚え、語のみを覚えるだけではなく句（フレーズ）単位で言えるようになる（話す能力） ・ JLPT N3 に合格する

授業計画

前期

第 1 回 オリエンテーション

第 2 回 JLPT 対策（パワードリル第 1 回）

第 3 回 JLPT 対策（パワードリル第 2 回）

第 4 回 JLPT 対策（パワードリル第 3 回）

第 5 回 JLPT 対策（パワードリル第 4 回）

第 6 回 JLPT 対策（パワードリル第 5 回）

第 7 回 JLPT 対策（パワードリル第 6 回）

第 8 回 JLPT 対策（パワードリル第 7 回）

第 9 回 JLPT 対策（パワードリル第 8 回）

第 10 回 JLPT 対策（パワードリル第 9 回）

第 11 回 JLPT 対策（パワードリル第 10 回）

第 12 回 JLPT 対策（パワードリル第 11 回）

第 13 回 JLPT 対策（パワードリル第 12 回）

第 14 回 JLPT 対策（パワードリル第 13 回）

第 15 回 JLPT 対策（パワードリル第 14 回）

第 16 回 JLPT 対策（パワードリル第 15 回）・テスト対策

第 17 回 試験

第 18-19 回 試験採点・返却、フィードバック

第 20 回 再試験

後期

第 1 回 オリエンテーション

第 2 回 JLPT 対策（パワードリル第 16 回）

第 3 回 JLPT 対策（パワードリル第 17 回）

第 4 回 JLPT 対策（パワードリル第 18 回）

第 5 回 JLPT 対策（パワードリル第 19 回）

第 6 回 JLPT 対策（パワードリル第 20 回）
第 7 回 JLPT 対策（パワードリル第 21 回）
第 8 回 JLPT 対策（パワードリル第 22 回）
第 9 回 JLPT 対策（パワードリル第 23 回）
第 10 回 JLPT 対策（パワードリル第 24 回）
第 11 回 JLPT 対策（パワードリル第 25 回）
第 12 回 JLPT 対策（パワードリル第 26 回）
第 13 回 JLPT 対策（パワードリル第 27 回）
第 14 回 JLPT 対策（パワードリル第 28 回）
第 15 回 JLPT 対策（パワードリル第 29 回）
第 16 回 JLPT 対策（パワードリル第 30 回） ・ テスト対策
第 17 回 試験
第 18-19 回 試験採点・返却、フィードバック
第 20 回 再試験

授業の方法

講義、演習

教材

松浦 真理子 (監修), 鈴木 健司 (監修), アスク出版 編集部 (編集)(2011)「日本語パワードリル N3 文字・語彙 (「日本語能力試験」対策)」 アスク

評価の方法

期末試験 80%、授業点 20%

授業態度の評価は、学生規則の中の、授業態度に関するルールを基に行う

授業外での学習方法

2025 年度

・教科書を用いた自習

実務経験と授業科目の関係

経営学・プロジェクトマネジメント I

授業の目的・概要

企業経営についての基礎を学び、日本企業とその経営についての理解を深める。

消費者行動やマーケティングについての知識を身に付け、経営戦略上の行動が市場に及ぼす影響を予測できるようになる。

経営戦略を策定するためのフレームワークを理解し、簡単な分析で使えるようになる。

学科	服装科	教員	勝又 誉樹
コース	ビジネスコース	教員の実務経験	あり
対象	1 年次	年間単位時間	40

目標

前期

経営学を学ぶ意味を理解し、説明できるようになる。

企業資源の種類とマネジメントについて学び、説明できるようになる。

経営戦略を策定するためのフレームワークを理解し、簡単な分析で使えるようになる。

後期

企業の競争原理について理解し、生存するパターンについて説明できるようになる。

マーケティングの基礎を理解し、製品について企業と消費者の視点から考察できるようになる。

経営戦略を策定するためのフレームワークを理解し、簡単な分析で使えるようになる。

授業計画

前期

第 1 回 授業の目的、本講義の全体像、平常点の説明

第 2 回 経営学とは、経営学を学ぶ意味

第 3 回 企業の 4 つの資源、経営戦略とは、差別化

- | | |
|-----------|--------------------------|
| 第 4 回 | 経営戦略の構造、戦略の上位概念の位置づけ |
| 第 5 回 | 製品志向と市場志向、経営戦略策定・実行のプロセス |
| 第 6 回 | 会社の資源配分を考える、PPM |
| 第 7 回 | 経営環境の把握、PEST 分析 |
| 第 8 回 | 5force 分析 |
| 第 9 回 | 内部環境分析、バリューチェーン |
| 第 10 回 | SWOT 分析 |
| 第 11 回 | 事業戦略 4 つの類型 |
| 第 12 回 | ポジショニング戦略 |
| 第 13 回 | リソース・ベースド・ビュー戦略 |
| 第 14 回 | ビジネス生態系戦略 |
| 第 15 回 | 前期まとめ |
| 第 16 回 | テスト対策 |
| 第 17 回 | 試験 |
| 第 18-19 回 | 試験採点・返却・フィードバック |
| 第 20 回 | 再試験 |

後期

- | | |
|-------|-----------------------|
| 第 1 回 | 前期の復習、後期授業の目標・全体像 |
| 第 2 回 | 勝てる戦略策定 5 つのコツ |
| 第 3 回 | 競争地位 4 つの類型 |
| 第 4 回 | グローバルビジネスとビジネスのグローバル化 |
| 第 5 回 | ブランディング |
| 第 6 回 | 内部・外部成長戦略 |
| 第 7 回 | マーケティングとは |
| 第 8 回 | 環境分析 |
| 第 9 回 | STP |

2025 年度

第 10 回	マーケティングミックス
第 11 回	製品・サービス政策、価格政策
第 12 回	チャネル、プロモーション製作
第 13 回	プロダクトアウト・マーケットイン
第 14 回	顧客の生涯価値、経験価値マーケティング
第 15 回	後期まとめ
第 16 回	テスト対策
第 17 回	試験
第 18-19 回	試験採点・返却・フィードバック
第 20 回	再試験
授業の方法	
講義	

教材
サクッとわかる ビジネス教養 経営学（池上重輔）2024 年 新星出版社

評価の方法
期末試験（80％）・平常点（20％）（授業態度・課題提出における総合評価）

授業外での学習方法

実務経験と授業科目の関係

情報社会学・情報倫理

授業の目的・概要

- (1)リリースされた際の反応や影響のイメージから逆算し、ルール・マナー違反のないコンテンツを作成することができる
- (2)その施策をとることによる顧客からの反応や、関係者に起こりうる影響のイメージから逆算し、個人情報効果を効果的かつ適切に収集することができる

科	服装	教員	森 泰之
コース	ビジネス	教員の実務経験	あり
対象年次	1 年次	年間単位時間	40

目標

前期

1. 情報社会における犯罪や危険性について例を挙げ、解決策を考えることができる
2. SNS 等における炎上や匿名性について説明し、その対策を考えることができる
3. 情報の出典元を確認し、信憑性の高い情報を収集することができる
4. 不適切な表現やルール・マナー違反のおそれをあらかじめ精査し、炎上のリスクを減らした提案資料を作成し、発表することができる

後期

5. 知的財産について法に触れる事柄を理解し、適切なコンテンツ利用を行うことができる
6. 個人情報について法に触れる事柄を理解し、ケースごとに個人情報の提供可否を判断することができる
7. 法律違反のおそれをあらかじめ精査し、適切な個人情報収集フォームを作成することができる

授業計画

前期

第 1 回 オリエンテーション

授業の目的、成績評価、平常点について

第 2 回 情報の成り立ち

第 3 回 データと情報の違い

第 4 回 情報とメディア

第 5 回 電子掲示板、SNS

第 6 回 情報化進展による犯罪やその危険性、具体例紹介

(サイバー犯罪の種類と種類ごとの事例)

第 7 回 グループワーク：上記具体例の解決法の発表

(特に、技術面以外での対策を議論させる⇒ソーシャルエンジニアリング)

第 8 回 炎上の段階と炎上原因について

※段階：発生、拡散、報道

※原因：不適切な発言、サイト・広告の倫理的問題、
社内外からの問題リークと告発、利用客側の問題

第 9 回 グループワーク：炎上への対策発表

班ごとにテーマを変えて、炎上の原因と対策を議論

(炎上事例参考：<https://sakujo.or.jp/netenjyou-kigyuu/#toc17>)

第 10 回 グループワーク：炎上への対策発表

第 11 回 インターネットの匿名性、情報の信憑性

第 12 回 グループワーク：後輩を学校に入学させるためのプレゼン資料作成

※出展の明記、炎上の恐れがないか等に配慮して作成

第 13 回 グループワーク：後輩を学校に入学させるためのプレゼン資料作成

第 14 回 グループワーク：プレゼン資料を用いて発表

第 15 回 グループワーク：相互フィードバック（炎上の要素、不適切な記載はないか）

第 16 回 テスト対策

第 17 回 試験

第 18-19 回 試験採点・返却、フィードバック

第 20 回 再試験

後期

第 1 回 情報発信の方法、注意点

第 2 回 知的財産（特許権、商標権）

第 3 回 知的財産（意匠権、著作権）

第 4 回 商標権侵害ケースワーク①：J-Platpat の活用

自分の持ち物から会社やブランドの名前を探し、その名称が商標登録されているか調べる

第 5 回 商標権侵害ケースワーク②：商標権トラブルが企業に与える実害

<https://www.jpo.go.jp/resources/report/sonota/service/document/index/h29-furoku2.pdf>

第 6 回 個人情報保護法

第 7 回 個人情報の取り扱い方

第 8 回 グループワーク：個人情報保護法に違反した例を紹介し対策を議論

事例参考：[pd_hiyari.pdf \(ppc.go.jp\)](#)

第 9 回 グループワーク：上記の違反部分、解決法の発表

第 10 回 グループワーク：前期の「後輩を学校に入学させるためのプレゼン資料」を基に

個人情報を収集するアンケートフォーム作成①

第 11 回 グループワーク：前期の「後輩を学校に入学させるためのプレゼン資料」を基に

個人情報を収集するアンケートフォーム作成②

第 12 回 グループワーク：プレゼン資料とフォームを組み合わせ、活用のイメージを発表①

第 13 回 グループワーク：プレゼン資料とフォームを組み合わせ、活用のイメージを発表②

第 14 回 相互フィードバック（法律に照らして不適切な動線や記載はないか）

第 15 回 総復習

第 16 回 テスト対策

第 17 回 試験

2025 年度

第 18-19 回 試験採点・返却、フィードバック

第 20 回 再試験

授業の方法

講義、グループワーク

教材

- ・教師用資料：『情報 I 』

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416756.htm

- ・『情報社会と情報倫理 改訂版』（梅本 吉彦（著））

[情報社会と情報倫理 改訂版 | 吉彦, 梅本 | 本 | 通販 | Amazon](#)

- ・『図解即戦力 SNS 担当者の実務と知識がこれ 1 冊でしっかりわかる教科書』（野村総合研究所データサイエンスラボ 広瀬 安彦（著））

[図解即戦力 SNS 担当者の実務と知識がこれ 1 冊でしっかりわかる教科書 | 野村総合研究所データサイエンスラボ 広瀬 安彦 | 本 | 通販 | Amazon](#)

評価の方法

試験 80%、授業態度 20%

授業外での学習方法

- ・日常生活においても授業で学んだ情報倫理を意識して行動する
- ・毎日のニュースを確認し、個人情報漏洩や SNS での炎上があった際は、それがなぜ起こったのか、企業がそれを受けてどのような対応をしているか、調べておく。

実務経験と授業科目の関係

服装造形論 I

授業の目的・概要

(1) ファッションの文化や歴史から基礎的な知識を身につける。

創造性や美意識・価値観に対しての関心を持ち理解することができる。

(2) ファッションビジネスに対する知識を身に付け専門用語を理解する。

業界の全体像を理解し、職域について学び、ビジネスに必要な情報と商品知識全般を習得します。

科	服装科	教員	渡邊洋平
コース	ビジネスコース	教員の実務経験	あり
対象年次	1 年次	年間単位時間	120

目標

前期

- ファッションとは何か？ 私たちライフシーンやビジネスシーンに関連して説明することができる。
- ファッションの歴史について 西洋文化と歴史 その成り立ちについて説明することができる。
- ファッションビジネスの概要について理解をし、専門用語を使用できるようになる。
- アパレル企業の職種について 概要を理解し、分類して説明できるようになる。
- ファッションマーケティングと流通 専門用語を理解できるようになる。
- ファッションの産業構造 素材・生地について 専門用語を使用できるようになる。

後期

- ファッションにおける機能と造形について 説明することができる。
- ファッションアイテムや商品についての専門知識を身につけて 説明することが出来る。
- グローバルブランドの企業についての知識を身につけて内容について説明することができる。
- アパレル企業のサステナブルな取り組みについて説明することができる。

授業計画

前期

第 1 回 オリエンテーション（授業の目的、成績評価、平常点について）

服飾造形論の学習要綱（ファッションビジネス知識とファッション造形知識）

第 2 回 ファッションとは何か？ 1 なぜ人は服を着るのか 実用性について 1

第 3 回 ファッションとは何か？ 2 なぜ人は服を着るのか 実用性について 2

第 4 回 ファッションとは何か？ 3 社会性について 衣服の記号としての意味合い 1

第 5 回 ファッションとは何か？ 4 社会性について 衣服の記号としての意味合い 2

第 6 回 ファッションとは何か？ 5 審美性・自己表現 1

第 7 回 ファッションとは何か？ 6 審美性・自己表現 2

第 8 回 ファッションのトレンドについて 1 25 Spring / Summer

第 9 回 ファッションのトレンドについて 2 4 大コレクション

第 10 回 世界のファッションショー Dior PRADA など

第 11 回 ファッションの歴史について 1 中世 15-16 世紀

第 12 回 ファッションの歴史について 2 近世 17-18 世紀

第 13 回 ファッションの歴史について 3 近代 1900 年代

第 14 回 ファッションの歴史について 4 近代 1940 年代 以降

第 15 回 ファッションの歴史について 5 現代 1960 年 以降

第 16 回 ファッションの歴史について 6 現代 2000 年 以降

第 17 回 ファッションビジネスの概要 1 ファッションビジネスの定義と特性

第 18 回 ファッションビジネスの概要 2 繊維ファッション産業の概要

第 19 回 ファッションビジネスの概要 3 ファッションビジネスの歩み

第 20 回 ファッションビジネスの概要 4 今日ファッションビジネスの動向

第 21 回 ファッションビジネスの概要 小テスト

第 22 回 ファッション生活・ファッション消費 1 消費者行動とファッション表現

第 23 回 ファッション生活・ファッション消費 2 ライフスタイルとファッション

- | | | | |
|--------|-------------------|---|-------------------------|
| 第 24 回 | ファッション生活・ファッション消費 | 3 | お客様の購買動向 |
| 第 25 回 | ファッション生活・ファッション消費 | | 小テスト |
| 第 26 回 | ファッション産業構造 | 1 | アパレル産業の概要 |
| 第 27 回 | ファッション産業構造 | 2 | ファッション小売業と SC の概要 |
| 第 28 回 | ファッション産業構造 | 3 | ネットビジネスの概要 |
| 第 29 回 | ファッション産業構造 | | 小テスト |
| 第 30 回 | ファッションマーケティング | 1 | マーケティングの基礎知識 |
| 第 31 回 | ファッションマーケティング | 2 | 消費者分類手法 |
| 第 32 回 | ファッションマーケティング | 3 | 市場調査の基礎知識 |
| 第 33 回 | ファッションマーケティング | | 小テスト |
| 第 34 回 | ファッションマーチャンダイジング | 1 | マーチャンダイジングの基礎知識 |
| 第 35 回 | ファッションマーチャンダイジング | 2 | 商品の企画・生産・販売の流れ |
| 第 36 回 | ファッションマーチャンダイジング | 3 | リテール品揃えの基礎知識 |
| 第 37 回 | ファッションマーチャンダイジング | 4 | ファッション資料の知識 |
| 第 38 回 | ファッションマーチャンダイジング | | 小テスト |
| 第 39 回 | ファッション流通 | 1 | 流通に関する基礎知識 |
| 第 40 回 | ファッション流通 | 2 | ファッションショップの仕組みと業務 |
| 第 41 回 | ファッション流通 | | 小テスト |
| 第 42 回 | アパレル業界の職種について | 1 | デザイナー・パタンナー・ソーイングスタッフなど |
| 第 43 回 | アパレル業界の職種について | 2 | MD・バイヤー・FA など |
| 第 44 回 | ファッション産業の職種概要 | 1 | ファッション産業の職種概要 |
| 第 45 回 | ファッション産業の職種概要 | 2 | 求人・採用 |
| 第 46 回 | ファッション産業の職種概要 | | 小テスト |
| 第 47 回 | ビジネス基礎知識 | 1 | 会社に関する基礎知識 |
| 第 48 回 | ビジネス基礎知識 | 2 | 係数の基礎知識 |
| 第 49 回 | ビジネス基礎知識 | 3 | IT 基礎知識 |
| 第 50 回 | ビジネス基礎知識 | | 小テスト |

第 51 回 テスト対策

第 52-54 回 試験

第 55-57 回 試験返却、フィードバック

第 58-60 回 再試験

後期

第 1 回 前期の学習内容確認、後期の授業概要説明（服飾造形知識について）

第 2 回 ファッション、デザイン、アパレルについて 1 ファッションデザインの定義と特性

第 3 回 ファッション、デザイン、アパレルについて 2 衣服とアパレルデザインの基礎知識

第 4 回 ファッション、デザイン、アパレルについて 3 繊維とアパレルの基礎知識

第 5 回 ファッション、デザイン、アパレルについて 小テスト

第 6 回 ファッションコーディネート 1 コーディネートの基礎知識

第 7 回 ファッションコーディネート 2 ファッションスタイリング

第 8 回 ファッションコーディネート 3 ビジネスにおけるスタイリング提案

第 9 回 ファッションコーディネート 4 ディスプレイ知識

第 10 回 ファッションコーディネート 小テスト

第 11 回 ファッション商品知識 1 アパレルアイテムの知識

第 12 回 ファッション商品知識 2 シルエットの知識

第 13 回 ファッション商品知識 3 デティールの知識

第 14 回 機能と造形について 1 A ライン フィット&フレアー トラペーズライン

第 15 回 機能と造形について 2 ストレートライン ボックスシルエット I ライン

第 16 回 機能と造形について 3 コクーン サルエル ドレープ

第 17 回 ファッション商品知識 4 品質・品質証明書の知識

第 18 回 ファッション商品知識 5 サイズの地位知識

第 19 回 ファッション商品知識 6 繊維、糸の知識、染色の知識

第 20 回 ファッション商品知識 7 織物の知識

第 21 回	ファッション商品知識	8	ニットの知識
第 22 回	ファッション商品知識	小テスト	
第 23 回	ファッションデザイン	1	デザイン画と製品図の理解
第 24 回	ファッションデザイン	2	デザインと機能
第 25 回	ファッションデザイン	3	色彩基礎知識
第 26 回	ファッションデザイン	4	柄の知識
第 27 回	ファッションデザイン	小テスト	
第 28 回	グローバルブランドについて	1	LVMH グループについて
第 29 回	グローバルブランドについて	2	ケリングについて
第 30 回	グローバルブランドについて	3	リシュモンについて
第 31 回	グローバルブランドについて	リサーチ報告	発表 1
第 32 回	グローバルブランドについて	リサーチ報告	発表 2
第 33 回	グローバルブランドについて	リサーチ報告	発表 3
第 34 回	ドメスティックブランドについて	1	コムデギャルソン ヨウジヤマモト イッセイミヤケ
第 35 回	ドメスティックブランドについて	2	サカイ オーラリー アンリアレイジ
第 36 回	ドメスティックブランドについて	3	ユイマナカザト CFCL トモコイズミ
第 37 回	ドメスティックブランドについて	リサーチ報告	発表 1
第 38 回	ドメスティックブランドについて	リサーチ報告	発表 2
第 39 回	ドメスティックブランドについて	リサーチ報告	発表 3
第 40 回	ファッション・エンジニアリング	1	服飾造形に関する基礎知識
第 41 回	ファッション・エンジニアリング	2	パターンに関する基礎知識
第 42 回	ファッション・エンジニアリング	3	アパレル製造の基礎知識
第 43 回	ファッション・エンジニアリング	小テスト	
第 44 回	アパレル業界における S サステナブルについて	1	
第 45 回	アパレル業界におけるサステナブルについて	2	
第 46 回	アパレル業界におけるサステナブルについて	3	
第 47 回	アパレル企業におけるサステナブルの取り組み	発表	1

2025 年度

第 48 回 アパレル企業におけるサステナブルの取組み 発表 2
第 49 回 アパレル企業におけるサステナブルの取組み 発表 3
第 50 回 アパレル企業におけるサステナブルの取組み 発表 4
第 51 回 テスト対策
第 52-54 回 試験
第 55-57 回 試験返却、フィードバック
第 58-60 回 再試験

授業の方法

講義、問題演習

教材

教師用参考資料

ファッションビジネス 3 級 新版 発行者：濱田勝弘（2022 第 2 版 1 刷行）

発行所：一般財団法人日本ファッション教育振興協会

評価の方法

試験 80%、授業態度 20%

授業外での学習方法

百貨店や路面店などのグローバルブランドの店舗にて、商品のデザインや価格、販売構成のリサーチを行いファッションマーケティングの学習の予備知識としてリサーチを行う。

実務経験と授業科目の関係

企画・デザイナーとしてのキャリアがあり、アパレル全般の職種で必要となる商品知識や生産・流通に至るファッション業界のビジネス全般に関わる専門的な知識と情報を有している。

デザイン I

授業の目的

- ・ 二年次の就職活動に備えることを目的とし、企業からの内定を獲得するまでに必要となる社会マナーや就職活動に関する基本的な技術を身につける。
- ・ 日本の特殊な就職活動の実態について理解し、翌年の3月から就職活動を始められるようにする。

科	服装科	教員	宮崎 陸、前田 遥香、鈴木 規子
コース	ビジネスコース	教員の実務経験	
対象年次	1年次	年間単位時間	40

目標

前期

- ・ 就職活動で対外的な連絡・対話をする際のマナーを理解し、実践できるようになる。
- ・ 日本の就職活動のスケジュールを理解し、それに沿ったJLPT等資格取得の目標を立てられるようになる。

後期

- ・ 誰にでも伝わりやすく、企業に好印象を与えられる履歴書を作成する技能を身に付ける。
- ・ 自己分析の手法を理解し、実践できるようになる。
- ・ 就職活動サイトの使い方を理解し、自分で会社を探せるようになる。
- ・ 勤務地・手当・福利厚生などの用語を理解し、説明できるようになる。

授業計画

前期

第1回

オリエンテーション、キャリアデザインの必要性

授業の目的、成績評価、平常点について。JLPT・TOEIC受験のすすめ。日本の就活のス

	ケジュールについて。
第2回	P.12 学生と社会人の違い
第3回	P.14 就業時間
第4回	P.18 遅刻・早退・欠勤
第5回	P.20 事例から考える「メールしましたけど」、P.21 確認クイズ
第6回	P.38 情報管理 (+SNSの利用について)
第7回	P.44 上下関係
第8回	P.46 敬語
第9回	P.58 身だしなみ
第10回	P.60 あいさつの基本
第11回	P.22 話し方と聞きかた (+目上の人と話すときの返事、相槌の打ち方)
第12回	P.62 おじぎ、P.64 確認クイズ
第13回	P.66 立ち居振る舞い、P.67 物の受け渡し方
第14回	P.68 ドアの開け閉め、P.69 確認クイズ
第15回	前期のまとめ
第16回	テスト対策
第17回	試験
第18-19回	試験採点・返却、フィードバック
第20回	再試験
後期	
第1回	introduction 前期の復習と後期の進め方。JLPT・TOEIC受験のすすめ
第2回	P.76 席次
第3回	P.90 ビジネスメール
第4回	P.108 電話の受け方、P.110 電話のかけ方 (就活生として)
第5回	P.158 自分を知る・自己分析
第6回	自己分析の続き

第7回	P.164 企業を知る、企業研究
第8回	企業研究の続き
第9回	P.166 OB・OG訪問、P.168確認クイズ
第10回	P.170 就職活動（+就職活動サイトの使い方）
第11回	P.172 応募書類（+履歴書作成）
第12回	履歴書作成の続き
第13回	P.176 面接
第14回	P.180 確認クイズ、P.181 求人情報の言葉
第15回	後期のまとめ
第16回	テスト対策
第17回	後期試験
第18-19回	試験採点・返却、フィードバック
第20回	再試験

授業の方法

授業計画に従って、講義形式で行う。

教材

教材：

羽鳥 美有紀（2021）「これ一冊でしごとのすべてがわかる！日本で働くための本-就活生から社会人まで-」 株式会社アスク出版

副教材：

岡 茂信(2024)「マイナビ2026 オフィシャル就活BOOK 内定獲得のメソッド 自己分析 適職へ導く書き込み式ワークシート (マイナビオフィシャル就活BOOK)」 マイナビ出版

評価の方法

学期末試験80%、授業態度・課題等20%

授業外での学習方法

復習：毎回授業の後は、どのような事を学んだのか振り返り、最終的に自分の言葉で人に説明できるようになる。

予習：ニュースから社会情勢を積極的に予習し、自己のキャリアビジョンに基づき、就職環境の理解に努めること。

実務経験と授業科目の関係

デジタルトランスフォーメーション

授業の目的・概要

大規模な集客を実現する方法やより多くの収益をあげる方法、業務を効率化する方法など、デジタル技術
をビジネスに活用する方法を考えられるようになる。多くの顧客を集客できるような Web ページを構築で
きるようになる。あらゆるビジネスを「逆算」で捉えられるようになる。

科	服装科	教員	宮崎 陸
コース	ビジネスコース	教員の実務経験	
対象年次	1 年次	年間単位時間	40

目標

- DX の根幹となる逆算の考え方をを用いて、様々な企業のケースを説明することができる。
- DX がビジネス改革だということを、具体的な例を挙げながら説明することができる。
- ホームページとソーシャルメディアを活用し、潜在顧客に自社製品を認知してもらうための情報発信ができるようになる。
- 商品を遠くに早くたくさん売ることができる EC プラットフォームを活用するメリットについて理解を深められるようになる。
- 取引から在庫管理・売上管理を一元化できる POS レジアプリを活用するメリットについて理解を深められるようになる。
- 十分な顧客獲得に必要なセッション数の目標を逆算して設定し、達成するための Web ページを制作することが出来る。

授業計画

前期

- 第 1 回 オリエンテーション、現代ビジネスのキーワード「DX」とは何か
- 「デジタルトランスフォーメーション」という言葉の意味と、登場した背景を知る。

身近に触れることもある Netflix、Spotify、Airbnb、Uber、メルカリなどのサービスを例に、DX と呼ばれる代表的な取り組みとその意義について知る。

第 2 回

なぜ DX が重要かーニューノーマルとデジタルディスラプションー

新型コロナウイルスの流行前後でどのように社会の在り方が変わったか、

それにより私たちの社会生活はどういった変化を強いられてきたかを取り上げるとともに、

コロナウイルス流行後のニューノーマル時代でデジタル技術が果たす役割を知る。

またデジタル技術のをうまく活用できないことで市場を追われるリスクがあることを理解する。

第 3 回

逆算の思考法：バックカスティング／フォアカスティング

プロジェクトの進め方として、現在を起点にする考えと未来を起点にする考えの二つがあり、

フォアカスティングは短期的な、バックカスティングは長期的な課題解決に

それぞれ適していることを理解する。

その上で、DX においては理想を描いた上で適切なデジタルツールを選択できる

バックカスティングの方が適していることを理解する。

第 4 回

DX のよくある失敗

金融系システムの統合や紙媒体とハイブリットになった行政のオンライン申請を例に、

長期的なゴールを明確にできず、目先の課題にとらわれたり

形式だけのデジタル技術導入を目指してしまうことで DX が失敗に陥ることを理解する。

第 5 回

売上を上げるための DX：技術の開発と活用の違い

第 1 回で取り上げたようなドラスティックな変革を振り返り、

全く新しいシステムを生み出し業界を先導できる存在は一握りであることを理解する。

一方で、メディア発信、EC サイト参画、セルフレジ導入のように

既存のツールを適切に選択・導入し業務を効率化させることによって

小規模な企業組織であっても DX に成功できる事例があることを知る。

第 6 回

オウンドメディアの役割と特性：オムロン／キーエンス／サイボウズ

オムロン／キーエンス／サイボウズを例に、オウンドメディアの使い方として、

分かりやすく自社製品の特長を打ち出し購入への動線を強化する切り口と

多くの人の興味を喚起するコンテンツを契機に間接的に自社の認知を増やす切り口とがあり
その目的の違いによってどのように HP の設計やデザインが変わるかを理解する。

第 7 回 HP 制作ツールとアナリティクスについて

Google Site、ペライチ、WordPress を例に、コーディングせずに HP 制作ができるツールの
それぞれの特色と具体的な機能について知る。

第 8 回 グループワーク：HP 制作①（NJ サイトコラム）

第 9 回 グループワーク：HP 制作②（NJ サイトコラム）

第 10 回 グループワーク：HP 制作③（NJ サイトコラム）

NEXTJAPAN サービスが外国人留学生から認知をより幅広く得られるためには
どの HP 制作ツールを使ってこういった内容を発信したらよいか、
グループで議論し実際にページを制作する

第 11 回 フィードバック：数値解析

第 8 回～第 10 回の成果物に対してアナリティクスツールで解析を行い、
こういった結果が得られるかをクラスで共有するとともに、
そこからこういった課題が見えるか、それを解決するにはこういった打ち手があるか議論す
る。

第 12 回 セッション数増加のための取り組み

第 11 回で分析した結果をもとに、HP のセッション数を増やすために考えられる取り組みにつ
いて議論し、実際に改善を行う

第 13 回 フィードバック：効果検証

第 12 回で行った改善対応に関して実際に効果が表れているかの確認を行う。

第 14 回 コンバージョン率上昇のための取り組み

第 11 回で分析した結果をもとに、HP のコンバージョン率を増やすために考えられる取り組み
について議論し、実際に改善を行う

第 15 回 フィードバック：効果検証

第 14 回で行った改善対応に関して実際に効果が表れているかの確認を行う。

第 16 回 HP 制作まとめ

第 8 回～第 15 回の内容をもとに、集客できる Web ページの制作に必要な要素を理解する。

第 17 回 試験対策

第 18～19 回 試験採点・返却、フィードバック

第 20 回 再試験

後期

第 1 回 前期の復習、逆算の思考法

第 3 回を中心に、第 1 回～第 5 回の内容を再度振り返り、定着度をチェックする。

第 2 回 E コマース：既存 EC サイトの活用

実店舗と EC サイト、またモール型 EC サイトと自社サイト型 EC サイトについて、それぞれを比較し互いのメリットデメリットについて理解する。

また小規模な企業組織にとっては既存モールの知名度や集客力を活かせるという意味でモール型 EC サイトを用いるメリットが大きいことを理解する。

第 3 回 グループワーク：EC サイト活用事例調査

第 4 回 グループワーク：EC サイト活用事例調査

第 5 回 グループワーク：EC サイト活用事例発表

実際にモール型 EC サイトを活用して売上向上に成功した企業の事例をグループで調べそれぞれの企業がどの特徴に注目してそのサイトを選定し、結果としてこういった課題をカバーすることに成功したかを軸に発表を行う。

第 6 回 ケースワーク：EC サイトの活用による改善提案

第 7 回 ケースワーク：EC サイトの活用による改善提案

第 8 回 ケースワーク：EC サイトの活用による改善提案発表

モール型 EC サイトを活用することで売り上げの改善が図れると思われる業態やサービスをグループで見つけ、具体的にどんなサイトを用いて業務を改善するかを発表する。

第 9 回 E コマース 発表フィードバック・復習

第 10 回 POS システム：顧客情報の分析

第 1 1 回 POS レジアプリ デモンストレーション

全サービス無料の「Air レジ」を用い、
一般的に POS レジアプリにどのような機能が備わっているかを理解する。

第 1 2 回 POS データを活用するための分析手法

サンプルデータを用意し、スプレッドシートを用いて
ABC 分析、トレンド分析、バスケット分析、RFM 分析のシミュレーションを行う。

第 1 3 回 ケースワーク：POS レジアプリの活用による改善提案

第 1 4 回 ケースワーク：POS レジアプリの活用による改善提案

第 1 5 回 ケースワーク：POS レジアプリの活用による改善提案発表

POS レジアプリを活用することで売り上げの改善が図れると思われる業態やサービスを
グループで見つけ、具体的にどういった運用を行えば業務を改善できるかを発表する。

第 1 6 回 POS システム 発表フィードバック・復習

第 1 7 回 試験対策

第 1 8 ～ 1 9 回 試験採点・返却、フィードバック

第 2 0 回 再試験

授業の方法

講義、ケーススタディ、グループワーク

教材

自作教材を使用する

- ・ Twitter, LINE, Instagram, Tiktok
- ・ ペライチ / Google site / WordPress
- ・ モール(amazon, 楽天), ショッピングカート ASP, CMS パッケージ
- ・ Air レジ

< 参考書 >

岡嶋裕史『プログラミング教育はいらない GAFA で求められる力とは?』（光文社、2019）

2025 年度

岡嶋裕史『実況! ビジネス力養成講義 プログラミング/システム』（日本経済新聞出版、2022）

小川卓『「やりたいこと」からパッと引ける Google アナリティクス 4 設定・分析のすべてがわかる本』
（ソーテック社、2022）

評価の方法

期末試験 80%、授業態度 20%

授業外での学習方法

1. 日々のニュースを見て、企業の DX への取り組みについて情報を集めること。
2. 就職活動の一環として、志望する企業のホームページ等を見て、DX への取り組みを調べること。

実務経験と授業科目の関係

進級制作 I

授業の目的・概要

日本と愛知の文化・観光・仕事を理解する。

日本語やマナーも練習して、就職活動につよくなる。

日本全体の概略（前期中心）で基礎を固め、後期で愛知県を深掘りすることで、日本と愛知県の魅力を知り、生活や仕事に役立つ知識と興味を育む。

科	服装科	教員	鈴木 規子
コース	ビジネスコース	教員の実務経験	
対象年次	1 年次	年間単位時間	80 コマ

目標

前期では、日本全体の地理、歴史、文化を広くカバーしつつ、愛知県を「特別な例」として少しずつ紹介。留学生が日本を俯瞰的に理解する土台を作る。

後期では愛知県をメインに、歴史、文化、観光、産業を詳しく扱い、日本や愛知県での仕事や生活にどうつながるかを具体的にイメージする。

授業計画

前期

- 第 1 回 オリエンテーション（自己紹介、授業の目的と全体像）
- 第 2 回 オリエンテーション（自己紹介、授業の目的と全体像）
- 第 3 回 日本の地理（地図で見る島国、4 つの主要な島、気候）
- 第 4 回 日本の歴史概略（古代～現代、簡単なタイムライン）
- 第 5 回 日本の文化（伝統と現代の融合、茶道やアニメなど）
- 第 6 回 愛知県の位置づけ（日本の中での役割、産業と歴史の紹介）
- 第 7 回 東京と大阪（首都と第二の都市、仕事のチャンス）
- 第 8 回 東京と大阪（首都と第二の都市、仕事のチャンス）
- 第 9 回 京都（歴史と観光）
- 第 10 回 北海道（自然と食べ物）
- 第 11 回 愛知県と名古屋の紹介（県庁所在地、人口、特徴）
- 第 12 回 地域クイズ（「この都市はどこ？」と地図で遊ぶ）
- 第 13 回 新幹線と鉄道網（歴史、速さ、使い方）

2025 年度

- 第 14 回 新幹線と鉄道網（歴史、速さ、使い方）
- 第 15 回 愛知と新幹線（名古屋駅の重要性、東海道新幹線）
- 第 16 回 実践ワーク（新幹線のチケット予約をシミュレーション）
- 第 17 回 和食の基本（寿司、丼、ラーメン、雑煮）と地域の違い
- 第 18 回 食べ物トーク（「自分の国の味とどう違う？」とディスカッション）
- 第 19 回 有名観光地（富士山、金閣寺、ディズニーランド）
- 第 20 回 有名観光地（原爆ドーム、東大寺、清水寺）
- 第 21 回 愛知の名古屋城と熱田神宮
- 第 22 回 祭りと伝統行事（全国と愛知の例：犬山祭り）
- 第 23 回 観光プラン作り（グループで「1 週間の日本旅行」を計画）
- 第 24 回 観光プラン作り（グループで「1 週間の日本旅行」を計画）
- 第 25 回 日本での暮らし（住まい、買い物、マナー）
- 第 26 回 日本のことわざ・風習
- 第 27 回 仕事環境（日本の企業文化、愛知のトヨタ例）
- 第 28 回 仕事環境（日本の企業文化、愛知のトヨタ例）
- 第 29 回 留学生の体験談（ゲストスピーカーや動画）
- 第 30 回 ロールプレイ（日本での挨拶や面接練習）
- 第 31 回 日本全体の復習（クイズ大会やプレゼン）
- 第 32 回 日本全体の復習（クイズ大会やプレゼン）
- 第 33 回 後期の講義「愛知県の予告編」
- 第 34 回 フィードバックと前期のまとめ（感想を聞く）
- 第 35～36 回 テスト対策
- 第 37 回 試験
- 第 38～39 回 試験採点・返却、フィードバック
- 第 40 回 再試験

後期

- 第 1 回 愛知の地図と基本情報（面積、人口、名古屋の役割）
- 第 2 回 愛知の歴史（戦国時代～現代、織田信長と徳川家康）
- 第 3 回 愛知の産業（トヨタ、製造業、仕事の可能性）
- 第 4 回 クイズとディスカッション（「愛知ってどんなイメージ？」）
- 第 5 回 名古屋城（歴史と見どころ、金シャチの話）
- 第 6 回 名古屋城（歴史と見どころ、金シャチの話）
- 第 7 回 熱田神宮（神話と伝統）

- 第 8 回 犬山城と周辺（自然と歴史）
- 第 9 回 ジブリパーク（アニメ文化と観光）
- 第 10 回 名古屋港水族館とレゴランド
- 第 11 回 愛知の祭り（犬山祭り、豊田おいでん祭り）
- 第 12 回 愛知の祭り（津島天皇祭り、知立の山車文楽とからくり）
- 第 13 回 観光プラン作成（「愛知で 3 日間どう過ごす？」）
- 第 14 回 観光プラン作成（「愛知で 3 日間どう過ごす？」）
- 第 15 回 名古屋名物（味噌カツ、ひつまぶし、きしめん）
- 第 16 回 名古屋名物（手羽先、台湾ラーメン、モーニング）
- 第 17 回 地元のお店探し（留学生が行きやすい店リスト）
- 第 18 回 料理レシピづくり（簡単な名古屋風レシピを家で試す）

- 第 19 回 名古屋駅と新幹線（東海道新幹線のハブ）
- 第 20 回 名古屋駅と新幹線（東海道新幹線のハブ）
- 第 21 回 愛知の鉄道網（名鉄、JR、地下鉄）
- 第 22 回 生活シミュレーション（通勤や旅行の計画）
- 第 23 回 愛知での仕事と生活シミュレーション（住む場所、コスト）
- 第 24 回 愛知での仕事と生活シミュレーション（住む場所、コスト）
- 第 25 回 トヨタと自動車産業（工場見学の話、求人例）
- 第 26 回 デンソー・アイシン（工場見学の話、求人例）
- 第 27 回 愛知の中小企業と留学生のチャンス
- 第 28 回 日本語と仕事（必要なスキル、挨拶練習）
- 第 29 回 模擬面接（愛知の企業に応募する設定）
- 第 30 回 模擬面接（愛知の企業に応募する設定）
- 第 31 回 愛知の総復習（プレゼン大会：「私の愛知プラン」）
- 第 32 回 愛知の総復習（プレゼン大会：「私の愛知プラン」）
- 第 33 回 日本と愛知のつながり（全体像を振り返る）
- 第 34 回 終了式（感想、将来の目標をシェア）
- 第 35～36 回 テスト対策
- 第 37 回 試験
- 第 38～39 回 試験採点・返却、フィードバック
- 第 40 回 再試験

2025 年度

講義、プレゼンテーション、ディスカッション、プラン作成、クイズ

教材

愛知の教科書 (大人のための地元再発見シリーズ) JTB パブリッシング

アーテック(artec) ことわざカードかるた 2567

アーテック(artec)特産・名産 都道府県トランプ

かぜさぶろうワークス 1日10分日本地図をおぼえる本

池上彰 (2019 年) 『知らないと恥をかく世界の大問題 10 転機を迎える世界と日本』角川新書

池上彰 (2022 年) 『知らないと恥をかく世界の大問題 13 現代史の大転換』角川新書

池上彰 (2019 年) 『池上彰の世界の見方 東南アジア ASEAN の国々』小学館

評価の方法

筆記試験 80%、平常点 20%

平常点は、授業態度、出席率に応じて評価する。

授業外での学習方法

授業で学んだことを実生活で実践する。

実務経験と授業科目の関係